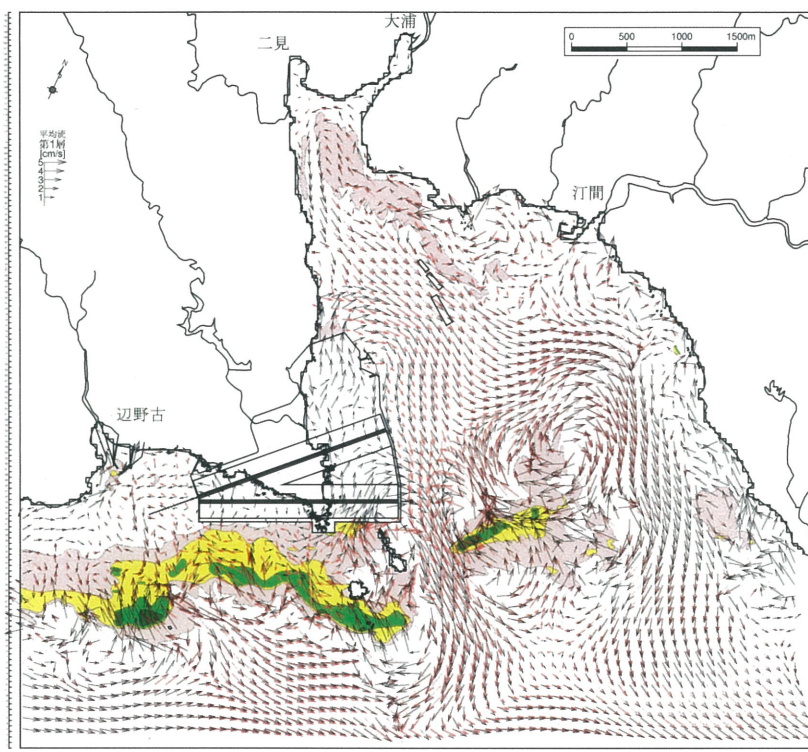


図-6.15.2.2.5 年最大波浪の変化（現況との波高の差異、潮位条件：HWL）

(流速ベクトル)

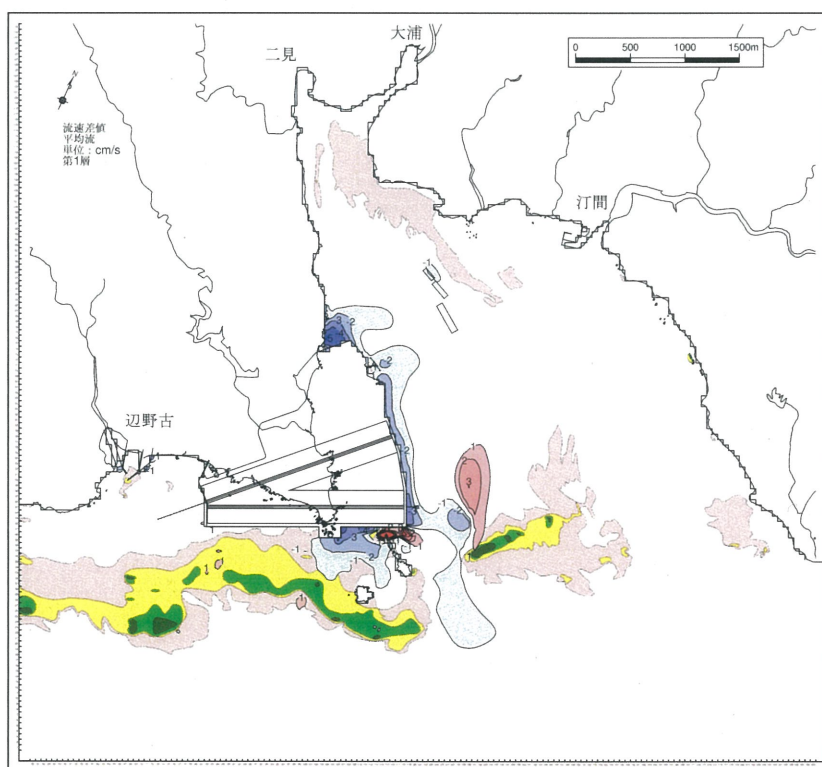


[流速ベクトル]

→ : 現況

→ : 将来

(流速変化域)



[流速変化]

[cm/s]

5

4

3

2

1

-1

-2

-3

-4

-5

[海藻類の生育範囲]

被度5~25%

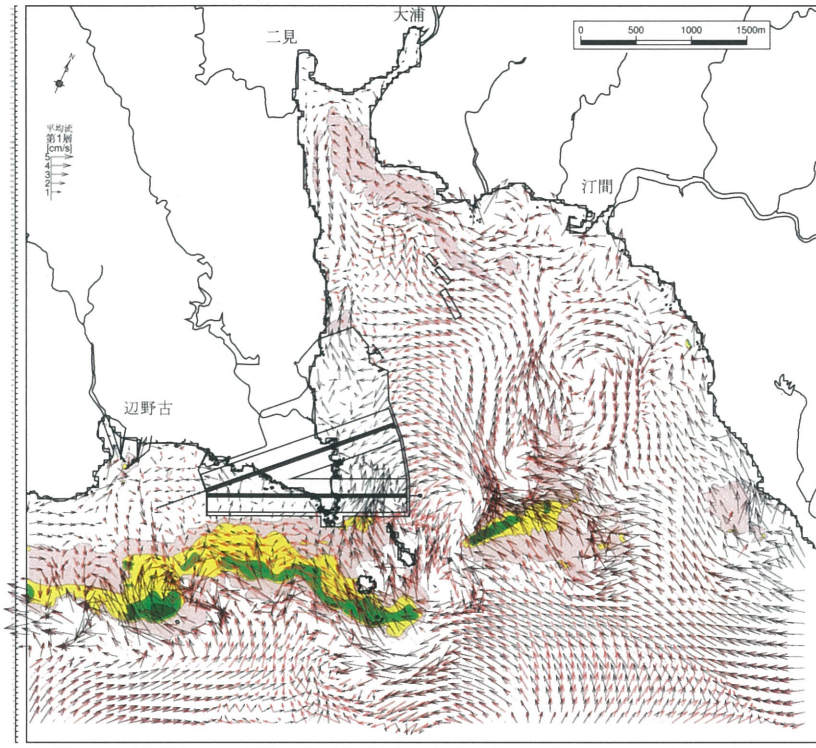
被度25~50%

被度50~75%

被度75%以上

図-6.15.2.2.6 存在時の流れの変化 (夏季、第1層 (0~2m) の平均流) と海藻類の生育範囲

(流速ベクトル)

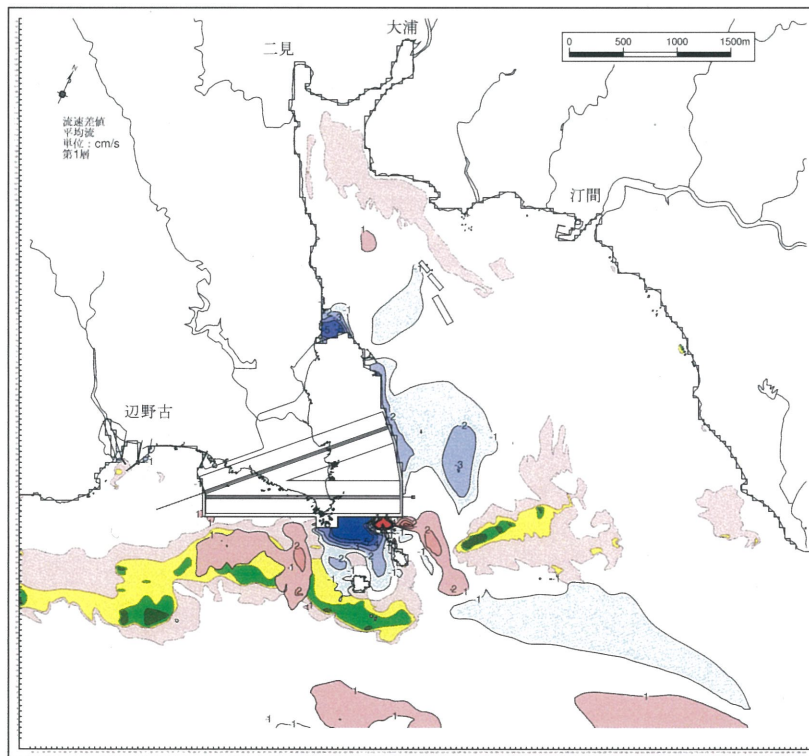


[流速ベクトル]

→ : 現況

→ : 将来

(流速変化域)



[流速変化]

[cm/s]

5

4

3

2

1

-1

-2

-3

-4

-5

[海藻類の生育範囲]

被度5~25%

被度25~50%

被度50~75%

被度75%以上

図-6. 15. 2. 2. 7 存在時の流れの変化 (冬季、第1層 (0~2m) の平均流) と海藻類の生育範囲

b) 砂の移動（漂砂）

台風等による高波浪に伴う浮遊砂は、海藻類を摩耗させたり、海藻類の着生基盤の洗掘・埋没などの要因となります。

砂の移動が海藻類に及ぼす影響については、「6.10 地形・地質」における海底地形の変化の予測結果をもとに、海藻類の生育範囲の周辺の海底地形の変化状況より砂の移動の可能性を検討しました。図-6.15.2.2.8に、台風通過前後の海底地形の変化について、現況（事業実施前）と施設等の存在時の海底地形の変化の差異を示しました。これによると、比較的顕著な差異が見られるのは、代替施設本体及び海上ヤードの近傍であり、最大で20cm程度の変化が見られます。また、代替施設北側の大浦湾の深海部において、比較的広い範囲で2cm程度の堆積の減少が見られます。このように台風通過に伴い代替施設本体や海上ヤードの近傍、及び大浦湾の深海部において地形が変化する区域が現れ、これらの区域では浮遊砂が移動すると考えられますが、その周辺では海藻類は少ないため、浮遊砂の移動による海藻類の生育環境の変化は小さいものと推察されます。

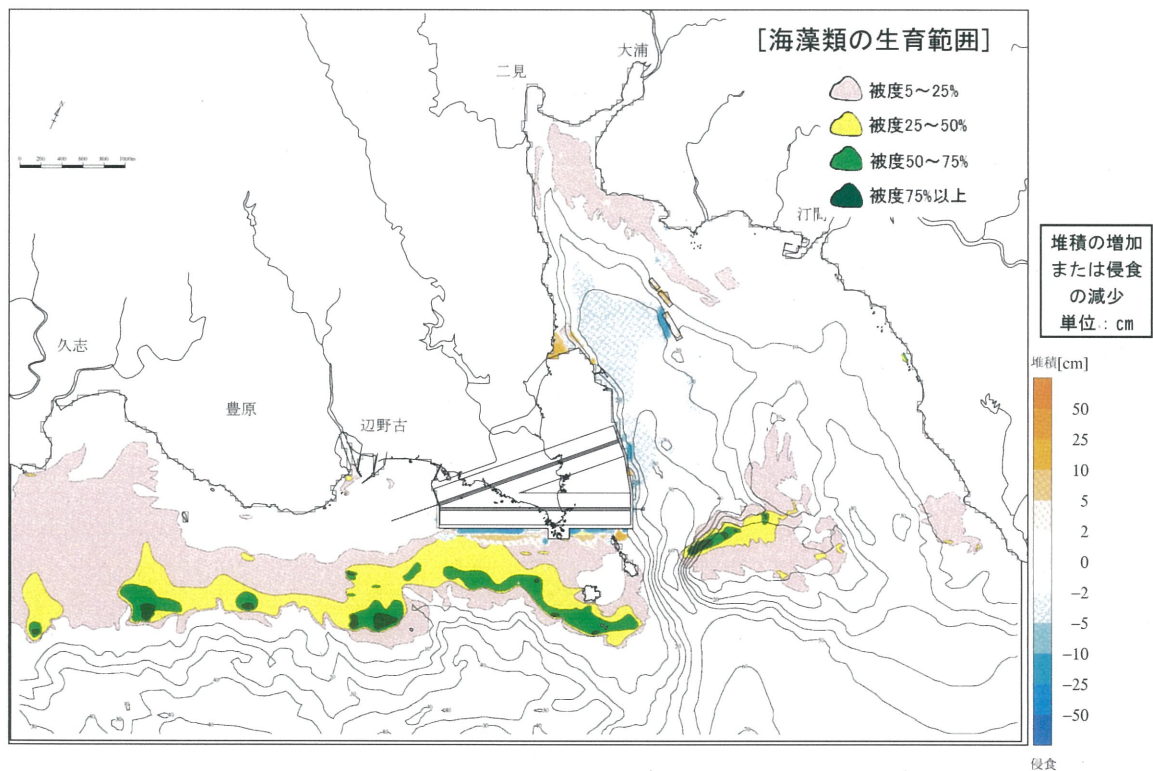


図-6.15.2.2.8 施設等の存在による海底地形変化への影響（事業実施前の海底地形変化と施設等の存在時の海底地形変化との差異）と海藻類の生育範囲

侵食の増加
または堆積
の減少
単位: cm